

もり
大森勝夫の音
おと
信たより

第2回定例会の報告 平成二十一年六月議会



京都 高桐院の庭園

日本独自の美から学ぶべき事は多い

心持に つつまれました。

何事にも通じることですが、原点をいつまでも忘れず胸の中で輝かせ続けることが大切です。

一人の町民としての意識や視線を失わないことが、求められているものを機敏に察知する感覚を維持できる秘訣であると思います。

大子中学校の耐震化の方針

耐震二次診断の結果が報告される

大子中学校の校舎は、耐震の精密検査ともいえる耐震二次診断がおこなわれました。

診断結果は「S」値で示されます。この値が0.7以上であれば補強により建物の延命が可能であり、0.3未満であれば建て替える必要があるという判断材料になります。

結果は校舎、体育館ともに0.3未満という数値でした。値から判断すると建て替えが必要な結果です。しかし、コンクリートの推定基準強度が基準値以上であったことから、耐震補強などにより耐震性能を保つことが可能という判定が報告されました。

原則的には建て替えが必要なレベルだが、コンクリートがとも頑丈なので、耐震工事をすれば、まあ大丈夫でしょうとの判定です。なんと町中の懐具合を見透かされたような、お情けを頂戴したようなトホホな耐震判定結果となりました。

耐震工事と建て替えでは、どちらがお得？

状況にもよりますが、耐震補強工事でも、数億円の費用がかかるでしょう。それなりのお金をかけて、二十年程度でもう使えませんが困ります。かといって、取り壊して新築するのはもっと費用がかかります。でも、修繕費用などは長期的に発生しないでしょう。

短期的にみるのか長期的にみるのかで、どちらがお得なのかの判断は変わってきます。また、現時点での財政事情も無視することはできません。耐震化工事か、新たに建て替えるか、どちらで進むべきなのでしょう。

【教育長 答弁】

耐震二次診断の判定結果により、耐震補強工事でも安全確保が可能であると示された。あわせて大規模な補修改造工事をおこなうことにより、長期的に使用可能な校舎になることが可能である。ゆえに耐震補強工事と大規模な修繕工事を施す考えである。

【大森勝夫 所感】

町に大きな財政負担を作らないためにも、耐震化工事の選択以外ないのかもしれない。一例だが、工事中の仮設校舎問題は、一年間ほど近隣の中学校に分散留学すれば、仮設校舎は不要になりその費用も発生しない。生徒間の交流も深まる。様々な方針は存在する。

みなさんこんにちは 大森勝夫です。
町議会議員になってから、六月の定例会で二年目を迎えることが出来ました。これもひとえに御支援頂いた皆様のおかげであると深く感謝する次第です。
議員になってから毎回の定例会ごとに一般質問をおこなってきたので、今回で五回目となりました。
今議会で登壇の折、ふと一昨年の初登壇のことが脳裏をよぎりました。懐かしくもあり、でも昨日のように鮮明な記憶であり、時空を超越したような不思議で神妙な

光ケーブル通信整備の方針

国の交付金を使い整備できないか

光ファイバーによる高速通信網は、この大子町では整備されていない。光通信のコマーシャルが流れても別世界の話である。署名活動での整備誘致もなかなか厳しい状況にある。そうしたなか、通信基盤の整備促進を目的とした国の交付金が予定されているという。これを機会に、交付金を活用し、遅れている光通信の環境整備を進めるべきではないでしょうか。整備への取組みはどうお考えか。

【町長 答弁】

現在、経済対策の緊急交付金など、整備事業に当てられる交付金を検討しているところである。整備費用がどのくらいかかるのか、町の負担はどのくらいになるのかなどを検討した上、方針を決定していきたい。

【大森勝夫 所感】

昨年の初質問の際に光通信整備について伺った。当時は該当する補助金もなく、通信事業者まかせの無力状態であり、今回は大きく前進したと思う。地域規模は未定だが、光通信が導入されることは間違いない。景気が好転してからの企業誘致や、在宅診療など医療

福祉面での可能性が広がることになる。なるべく広範囲で整備されることを願う。

アウトドア・スポーツでの活性化

スポーツイベントからみた大子の知名度

大子町をアウトドア・スポーツのメッカにしたいという町長の考え方には賛同です。広く定着した「湯の里マラソン」や初企画のトレイラン（山岳マラソン）などで交流人口を増やし、大子町の知名度とイメージアップを図れたら素晴らしいことです。

現在、観光客の袋田の滝への一極集中が顕著です。アウトドア・スポーツを通じた活動により、観光客の分散化が図れないでしょうか。八溝山など町の北部への訪問客が増えれば、町全体のバランスが取れた状況になると思うが、対応策などがあればお聞かせください。

【町長 答弁】

町の北部地域や八溝山付近も、伝統あるお祭りなど、魅力ある祭事が多い。魅力の伝え方により可能性は広がると思う。

【大森勝夫 所感】

大子町の魅力は、山と川の存在ぬきには語れないでしょう。その魅力を理解してもらうためにも、アウトドア・スポーツという手段は

適していると思います。一般の観光客とは違った視点で来ている方（アウトドア・スポーツでの訪問者）に袋田の滝だけではないことを理解してもらい、大子全域でバランスのとれた交流人口の増加を目指したいものです。

あとがき

五月末にカヌー乗りで有名な野田友佑さんが大子でイベントを行いました。

モンベルの会長の辰野勇さんや夢枕猿さん、オカリナ奏者の宗次郎さんも友情参加するなど、有名人がこんなに大子に来ちゃったと正直驚きました。

日本中の川をカヌーで下った野田さんが、久慈川を気に入って、イベントのなかで何度も褒めてくださいました。嬉しいことです。

友人と雑談で「大子の川の全部でホタルが飛んだら凄いよね」という話になりました。確かにそうなれば、大子町は有名になるでしょう。滞在型の観光客もふえるし、一極集中の観光から抜け出せるかもしれない。美しい町としてのイメージが定着する。町民は川を綺麗にしようと、環境意識も高まる。住む人、来る人、一緒になって同じ価値観を共有できるテーマになるのではないかと思っただけです。もうすぐホタルの季節。淡い光はどこを舞うのでしょうか。

大子町議会議員 大森 勝夫

